

市政90年（1980年）を記念して移築された数寄屋建築

大／阪／の／建／築／まちあるき——「堺」

ちゃしつ しんあん・おうばいあん
茶室 伸庵・黄梅庵



伸庵・黄梅庵の入り口部分



伸庵の入り口部分



黄梅庵の入り口部分



黄梅庵の縁側部分

所在地：堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁目 大仙公園内
 最寄駅：JR阪和線百舌鳥駅下車、駅前の御陵通りを西に向かい徒歩5分で大仙公園入り口、公園内の市立博物館の隣
 営業時間：9:30～16:30 入場料：無料
 定休日：月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）、年末・年始、堺市博物館の休館日
 建築概要 ▶ 伸庵（しんあん） 国登録有形文化財、仰木魯堂（ろうどう）（1863～1941）が芝公園（東京都港区）に建てた木造2階建て
 ▶ 堺市茶室黄梅庵（おうばいあん） 登録文化財、江戸中期/昭和23・55年（1948-1980年）移築、木造平屋建、銅板葺、建築面積80㎡

大阪市の南に位置する堺は、茶の湯に縁の深い土地といわれている。千利休の故郷であり茶道を完成させた場所で、武野紹鷗や今井宗久に津田宗及といった高名な茶人を多数輩出したが、その先達の優れた偉業を推し量れる物は、残念なことに何一つ残されていない。利休好みの茶室との謂れを持つ南宗寺の実相庵も戦災で焼失し（その後復元）、利休らの墓が残るのみ。そのため、堺市が1980年の市制90年を記念し、伸庵と黄梅庵の茶室を堺市博物館の横に、移築している。

伸庵（しんあん）は、数奇屋普請の名匠といわれた仰木魯堂が粋をこらして昭和4年に建てた茶室で、もと東京芝公園にあったものを、昭和55年に福助株式会社から寄贈され移築したものである。建物は茶室を含めて10室の和室を持つ風雅な二階建てで、多人数の茶事を催すことができる。また、立礼席（約25席）も設けて、気軽に抹茶を楽しむこともできる。

黄梅庵は奈良県今井町（橿原市）の豊田家（重要文化財）にもあった茶室である。戦前に、電力産業界の雄でかつ近代の数寄者でもあった松永安左エ門（耳庵）<1875-1971>の手に渡り、昭和21年に彼の小田原での別邸内に再建された。その後縁あって、昭和55年に堺市博物館内へ移築された。ちなみに庵名「黄梅庵」は、梅の実が黄熟する頃に完成したことから、耳庵により命名された。外観は、銅板葺きの屋根を重ね合わせた変化に富んだ構成となっている。内部は、八畳敷の広間と小間（三畳）と勝手水屋等から成っている。広間の正面には床を構え、天井は化粧屋根裏とした軽快な数寄屋造としている。また小間は、平三畳で下座床を設け、炉は向切としている。豊田家に所在していた頃には、今井宗久の茶室であったと伝えられていたが、建築様式的にはその頃までに遡ることが難しく、実のところ建築された年代等については明らかでない。（七堂元敏）